

日台交流日録

〔平成16年2月26日〜4月26日〕

これからの日本と台湾が見えてくる

2・26 食い倒れの街で美食フェア

大阪市の阪神百貨店で「台湾美食フェア」。

主催の趙永全・台湾貿易センター総経理は「開催地に大阪を選んだのは、食い倒れの街の消費者は舌が肥えているから。ここで評価されれば全国でも認められる」と説明。

2・28 二・二八人間の鎖に日本人も

李登輝前総統の呼びかけで「二・二八人間の鎖」運動が行われ、基隆から屏東まで二百二十万人が参加、国民の団結と中国のミサイル反対の意思を内外に示したが、各地では大勢の日本人も友情参加し、話題になった。

3・1 大東亜戦争時代の史料展

南投県の国史館台湾文献館では、大東亜戦争中の軍服、日誌、作戦地図、回想録などを展示する特別展が。同館は「過去を知る最良の史料を集めた。当時を生きた人々には思い出深いものもあるだろう」と話している。

3・2〜3 小沢征爾氏が台湾で公演

小澤征爾氏指揮のウィーンフィル台湾公演

が台北市の国家音楽ホールで。チケットは即時完売の人気で、ホール外の野外スクリーンにも千人の観衆が。台湾人ファンの熱心さに感動した小沢氏は、野外の観客にも挨拶。

3・3 元日本兵諸団体が陳総統支持声明

元日本軍人・軍属の台湾人諸団体が陳水扁總統の台中市選挙本部に集結、「今度の總統選挙は台湾人と中国人の戦争。真正銘の台湾人として陳總統を支持する」との声明を発表。発言の多くは日本語。日本の軍服、軍帽を着用し、旭日旗を翻して氣勢を上げた。

3・11 日本時代の市街風景に脚光

嘉義市文化局は日本時代の風景に脚光を当て、昭和四年の市街地図の複製を発行。当時の商店、旅館、食堂などの広告も掲載されている他、当時の街並みや建物の写真も新たに収録。今後、昔の街並の写真集も発行予定。

3・16〜17 西武のチームメイト対決

西武でチームメイトだった郭泰源氏と大田卓司氏は、今年からそれぞれ台湾プロ野球の誠泰コブラズとLa Newベアーズの監督に就任。その二人の初対決が二日間にわたり高雄の澄清湖球場で。結果はコブラズが連勝。

同チームはこれでリーグ単独首位に。

3・17 山中氏の葬儀に台湾吊問団

山中貞則・日華議員懇談会会長の告別式が都内で行われ、台湾から姚嘉文・考試院長、許水徳・亜東関係協会会長ら弔問団が参列。一行は小泉首相、遺族らとともに最前列に座り、また姚院長は「中華民國總統代理」として追悼の辞を述べるなどの厚遇を受けた。

3・21 陳水扁氏再選で日本各紙が社説

三月二十日の總統選挙の結果を受け、日本の大手各紙は社説で論評を掲げた。朝日新聞は「人々が選んだのは陳氏だった。この事実を厳粛に受けとめるべき」と中国に訴えた。

3・22 丸紅が台湾で風力発電設備を受注

丸紅が台湾電力から風力発電設備を受注、総出力一万二千kwの設備を北部の香山地区に設置する。台湾政府は新エネルギー政策として風力発電プロジェクトを推進中。

3・25 許資政「日本は中国に遠慮無用」

許水徳・總統府資政は台北市での講演で、「日本は国益を中心にすべきで、中国への遠慮は無用。対台湾政策を改めるべきだ」と訴え、日台の自由貿易協定締結の促進、安全保障体制の確立を呼びかけた。

3・26 交流協会が陳總統再選に祝意

日本政府の対台湾窓口である交流協会は陳水扁総統再選を祝う書簡を送った。「今後の日台関係がさらに発展することを希望する」などとしている。この日に陳総統の当選が公告されたことを受けてのもの。

3・26 日台スカラシップの表彰式

日本工業新聞主催の「日台文化交流青少年スカラシップ」の表彰式が、国内応募総数七百十九点の絵画、書、作文から大賞、優秀賞など二十一点が選出。作文では大学生の宮川和子さんの「十字路に立つ」が大賞に。

3・26 台湾の美を吉野桜でPR

世界に台湾の美をPRするため、台湾政府は阿里山の名物吉野桜の下を走る機関車の写真を撮影。同地に吉野桜が日本から移植されたのは大正七年。現在でも三月中旬から下旬にかけて二千株が花を咲かせる。一方、阿里山鉄道の機関車は全て日本時代のもの。現在は運行していないが、今回、大正三年製のものを特別に走らせ、往時の情景を再現した。

3・27 陳総統、今後の対日関係に抱負

陳水扁総統は、日米両国政府から再選の祝意を受け、「今後四年間、台米・日台関係の強化を図り、アジア・太平洋地域のさらなる

安定と繁栄を図りたい」と抱負を語った。

3・28 剣道大会で武士道に関心

高雄市で台湾最大規模の剣道大会が開催され、日本選手を含む二百二十七人が出場。居合の演舞で現地メディアは、「会場では武士道精神が漲った」と興奮気味。最近台湾ではサムライ映画の影響もあり、精神修養も重視する剣道に関心が高まりつつある。

3・28 注目される安倍幹事長の姿勢

安倍晋三・自民党幹事長は日本台湾医師連合（岡山文章会長）主催の講演会で、陳総統の当選に祝意を示した。この日の日本の与党幹事長の「台湾支持」姿勢は、台湾でも大きく報じられ、注目された。

4・1 早大が李遠哲氏に名誉博士号

早稲田大学はノーベル化学賞受賞者の李遠哲・中央研究院院長に名誉科学博士号を授与、「世界でも最も著名な科学者だ」と李氏を称えた。李氏は日本語で「日本時代に早大の名声を聞いていた。昔日の親近感が甦った。名誉なことだ」と挨拶した。

4・2 「台湾総督」で温泉町興し

日本時代に風光明媚な温泉地として栄えた台北県金山郷が「温泉祭り」で町興し。目玉

のイベント「総督復活記」では、この地を好んだ小林躰造総督が小船で芸者と遊ぶシーンが演じられた。主催者は「日本人もいかに金山を愛していたか知ってほしい」とPR。

4・6 殉職日本人教師を再顕彰

台中県新社郷で大正九年、溪谷の中洲に限り残された台湾人児童の救出のため、激流に飛び込み殉職した日本人教師山岡栄氏の記念碑に、戦後初めて遺族が訪れ、住民の歓迎を受けた。山岡氏の義挙は戦後忘れられたが、近年地元では、再顕彰の動きが出ている。

4・7 WHOへの参加支持訴え遊説団

台湾の医師会の呉樹民理事長を団長とする超党派議員の「WHO加盟推進遊説団」が来日。WHO年次総会での台湾のオプザーバー参加実現のため、日本官民に協力を要請。

4・7 成長する日本向け輸出額

台湾の政府統計によれば、三月の輸出入額は過去最高。輸出額は百四十七億八千万ドルで、前年同月比一七・二％増、輸入額は百四十一億ドルで同二九・二％増。日本向け輸出額は十一億三千万ドルで同四・七％増。

4・7 日本時代の台北市歌を演奏

台北市は台北誕生百二十周年の記念行事

で、新しい市歌を募集するとともに、日本時代の市歌もおよそ六十年ぶりに演奏した。

4・8 陳總統が八田與一氏の功績評価

陳水扁總統は自身が発行するメルマガジンで、嘉南大圳を建設した八田與一氏を例に挙げ、「台湾で生活し、台湾を愛し、台湾のために心を砕く人であれば、誰もが偉大な台湾人だ」と強調、文化の異なるエスニックグループの融合と団結を訴えた。

4・10 山陰、四国にチャーター便

エバー航空は台北―高松―米子―台北のコースでチャーター便を就航。山陰、四国を訪れる台湾人は少なく、各地方自治体も台湾での観光PRに積極的に乗り出していた。

4・10 勇壮な神輿に拍手喝采

倉敷舞踏振興団と阿智神社祭祀団が、台中県立文化センターで神社伝統の舞踊や神輿を披露。神輿を担ぐ勇壮さに、観衆は拍手喝采。「大甲媽祖國際觀光文化フェスティバル」の一環で、海外からの参加第一号となった。

4・10 観光の目玉スポットは長野県

中央社の報道によると、台湾の大手旅行各社は今年、長野県を日本観光の目玉スポットにしている。最大の売りは四季を通じた美し

い自然で、高原、温泉、果物など。業界では「国際路線が開通すれば、北海道に負けない人気スポットになるはず」との声も。

4・11 日台の高校が姉妹校提携

岡山市内で、岡山県立興陽高校と台湾の国立台中高級農業職業学校の姉妹校締結の調印式が行われた。興陽高造園デザイン科の生徒が台湾に行き、同職業学校に日本庭園を造るなど、職員、生徒の交流が進められる予定。

4・14 台湾海軍の演習で海自方式導入

台湾海軍の魚雷演習が終了。今年は演習期間が従来の数日間から二週間になるなど、海上自衛隊方式が導入された。海自退役将官も随艦視察し、「両国軍事交流の大きな一歩」と評価する台湾メディアも。

4・15 日本時代の水道施設が文化財に

高雄市は日本時代から使用される打狗水道浄水池を歴史文化財に指定。精巧で機能的な鉄筋コンクリートの建造物は、建設当時のまま。高雄・屏東地区の上水道や民生の歴史を知る上でも価値があると評価された。

4・15 王立誠十段が四連覇

台湾出身の王立誠十段が十段戦五番勝負で四連覇。加藤正夫九段と並ぶ最多記録。

4・15 国籍変更先のトップは日本

内政部の統計では、昨年の台湾人の国籍変更は八百六十九件だが、変更後の国籍で最多は日本の四百七十九人で、二位の韓国の四倍強。変更の理由の六割は帰化。次いで結婚。

4・21 加勢大周さんがドラマ出演

俳優の加勢大周さんが台湾のテレビドラマ出演のため訪台。ドラマの舞台は日本時代。台湾初の医学博士杜聡明氏の学生時代の日本人校長を演じる。制作者側は「日本のアイドルと台湾の芸能人の共演で、情義の溢れるドラマになるはず」と意気込んでいる。

4・21 JTBが台湾専門の合弁会社

JTBは台湾の東南旅行社と、日本から台湾への観光旅行を専門に取り扱う新会社「世帝喜旅行社」（本社・台北市）を設立。代理店任せの体制を改め、顧客の倍增を目指す。

4・26 拡大され行く「七夕交流」

佐々木謙一・仙台副市長は許添財・台南市長を訪問、八月の仙台七夕まつりに招待した。仙台市は、伝統的な七夕行事を台湾で唯一残す台南市と市民交流を続けており、今後は経済、観光など、交流は拡大の見通し。

【永山英樹】